特集

こどもER

内科系救急から外科系救急まで
「熱が出た」「吐いた」「腹痛」「頭痛」「けがをした」「目が痛い」「耳が痛い」「のどが痛い」「皮膚がかゆい」
「目がかゆい」「鼻がつまる」「鼻がでる」「くしゃみ」「咳」「ぜんそく」「アレルギー」「発疹」「じんましん」「アトピー」「ぜんそく」「アレルギー」「発疹」「じんましん」「アトピー」

内科救急

外科救急

―西村先生、ごどもERとは何ですか？その特徴も教えてください

ごどもERとは、ひと言でいうと小児の困ったことに手ぎわよくするクリニックです。

ER（救急）で重要なことはアメリカのER（ER＝Emergency Room）の略で、直訳すると救急救命室という。救急外来のようなスペースを表す言葉ですが、一般的には北米での救急ステーションのことを指します。

北米型のER（ER＝Emergency Room）とは北米での救急患者を受け入れ、専門医によって全ての科の診断、および治療を行なう。必要があれば、専門科に相談（コンサルト）をしつつ、ステーションです。

既存の人見知ッ子医院と自分の前任地が、高度救急救命センターの救急外来を担当していたこともあり、北斗病院とごどもERの場合も一般的な風邪や胃腸炎などの内因系疾患だけではなく、怪我などの外因系疾患、外科系疾患、産婦人科系疾患の診断を行なうコンセプトで、ごどもERという名称になりました。

さらにクリニックステーションとは、ひとりで行なうのではなく、受診患者さんの状態を評価（トリアージ）し、緊急度、高い、早急な治療が必要な患者から診療を行っていくという特徴があります。

―ごどもERにはどのような患者が来ますか？

対象が赤ちゃんから中学校卒業までと、制限が年齢だけですので、どのような該当であれ、小児科受診希望であれば、ご相談はすべて受け入れます。

受診科目に関しても、通常の独歩実配だけではなく、開業時間外に、北斗病院の救急外来の受診患者さんも行っています。

また、ごどもステーションにはリピーターとなる方があり、受診患者さんの状態を評価（トリアージ）し、緊急度、高い、早急な治療が必要な患者から診療を行っていくという特徴があります。

―ごどもERにはどのような患者が来ますか？

対象が赤ちゃんから中学校卒業までと、制限が年齢だけですので、どのような該当であれ、小児科受診希望であれば、ご相談はすべて受け入れます。

受診科目に関しても、通常の独歩実配だけではなく、開業時間外に、北斗病院の救急外来の受診患者さんも行っています。

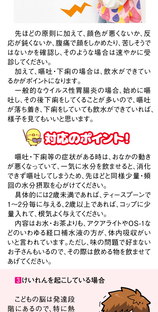
また、ごどもステーションにはリピーターとなる方があり、受診患者さんの状態を評価（トリアージ）し、緊急度、高い、早急な治療が必要な患者から診療を行っていくという特徴があります。

―新型コロナウイルス（COVID-19）感染流行で変化したことはありますか？

患者さん同士や、患者さんと医療従事者間で感染を起こさないようにするため、風邪症状や発熱がある方とない方、来院から診察、帰院までの流れを分けました。風邪症状がある方にテーブテ仕切られた個別のスペースで、マスク、手洗、ガウン、ゴーグルなどの感染防護具を使用した状態で診察を行なう。変更事項は、外見の違いから驚いて泣いてしまうお子さんもいましたが、最初はだいぶ慣れてきていただいた印象です（笑）。また診察スペースが限られていますので、受診患者さんが増えて来た際に、車内で待機していただき、順番が来たら電話連絡する方法に変更しました。

具体的な症状に対する観察のポイントとして

①咳や鼻水などのいわゆる風邪（上気道炎）の場合



先ほどの原因に加え、息をするときに鼻が上がっている・呼吸の回数が早いなどのきつそうな呼吸をしていないか、顔色が悪くないか、疲れ始めたりしていないか、ぐったりしていないか、ミルクを飲めず水分補給していたか、そのような症状がみられる場合は受診してください。

対策のポイント！

可能であれば頭を高くして呼吸が楽な体勢をとること、水分摂取をこまめに、脱水になりないようにすること。

ただし、お子さんの年齢が小さいほど、うまく飲を出せないので、頻と一緒に補給することがあります。

対策のポイント！

②嘔吐や下痢などの胃腸炎の場合

先ほどの原因に加えて、熱は何度くらいか、反応が鈍くないか、腹痛で顔をしかめたり、泣いちゃうなどの様子はないか、そのような場合は速やかに受診してください。

加えて、嘔吐・下痢の場合は、飲水ができているかどうかが大事です。

一般的なウイルス性胃腸炎の場合、始めに嘔吐し、その後下痢をしてくることが多いので、嘔吐が落ち着き、下痢をしている時水ができていれば、様子を見ていても良いです。

対策のポイント！

嘔吐・下痢等の症状がある時は、おなかの動きが乏しくなっていて、一旦に水分を飲ませると、消化できず嘔吐してしまうため、先ほどと同様少量・頻回の水分摂取をむけがけてください。

具体的には2時間ごとに、ティースプーン1～2分程度に与えると、2度以上であれば、コップ二分量入れて、様子見ていきます。

内容は白水・お茶よりも、アクアライトやOS-1などのいわゆる経口補水液の方が、体内吸収がいいと言われています。ただし、特の問題で好まないお子さんもいますので、その際は飲める物を飲ませてあげてください。

対策のポイント！

③いれんを起こしている場合

ごどもの脳は発達段階にあるので、特に熱が出たときなどはいれんを起こしやすいといわれています。いれんを起こしてしまうお子さんの際は、まずご自身が落ち着くことが大事です。ご自身がパニックになってお子さんを抱きかかえたりすることがあるのですが、吐物を吸い込まないように体を横に向け、口の周りにある唾液、吐物は拭き取ります。

また頭をぶつけないように、ご自身の膝の上に寝かせたりすると、刺激で嘔吐することがあるのでいないように。

そのほか、いれんの際、ご家族がいる時間を確認し、いれんの様子を観察します。できればスマホなどで動画を撮影できればなおいいです。

対策のポイント！

一般的にいれんは5分以内に止まることが多いとされるので、5分間を目安に観察し、止まらないければ救急車を要請します。

止まった場合や、よくわからない場合は、日中であれば小児救急電話相談（#8000）を使用するか東京都小児救急センター（☎0155-26-1099）へ連絡してください。

③ペットの扱う方、接を打った等後我をした場合

まずお子さんの様子を観察してください。顔色が悪い、反応が鈍い、保護れ始めなどの症状がある場合、速やかに医療機関を受けてください。また、大きくて、ぶつかるようなことがあった場合や、圧迫して出血が止まらない場合も受診を考えてもらったが良いと思います。その際はたくさんの高さから落ちたり、打撲の場合などのように打ったのが確認されてください。

④

元気な場合は経過を見てもらっていた際ですが、後から嘔吐、嘔吐、元気がないなどの症状が出ることがあるので、受傷後1日は様子を見てください。

―最後に、今後の時長と保護者の皆さまへのメッセージをお願いします

ごどもの健やかな成長と健康のため、ごどもでは、どのような病気であれ まず診療するというスタンスで、スタッフ一同診療しています。

お子さんのことでお配なこと、相談したいことがあれば気軽に受診してください。